

<第2回 夏のたんけんの報告>

期 日：平成28年7月16日（土）～18日（月） 2泊3日

参加者：33名

	男	女	合計
小学1年	4	4	8
小学2年	9	5	14
小学3年	8	3	11
合計	21	12	33

欠席：2名（小2男1名、小3女1名）

ボランティアスタッフ：男性 9名・女性 5名 合計14名

日程

7月16日 土	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
					移動・受付	はじまりのつどい	昼食（レストラン）				夏のたんけん① 「海になれよう！ スノーケリング」			夕食（レストラン）	テント泊の準備	入浴	就寝 本館泊	
7月17日 日	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
	起床	朝食のつどい	朝食（レストラン）	夏のたんけん②	「海のたんけん！ スノーケリング」		昼食（レストラン）			夏のたんけん③ 「大自然と海を 味わうキャンプ！」	キャンプの準備 テント設営			野外炊飯 カレー作りに挑戦	キャンプファイヤー 浜でくつろぐ夜		就寝 カタボコ浜・テント泊	
7月17日 月	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15								
	起床	朝食のつどい	朝食づくり	夏のたんけん④	「片づけと浜遊び」	自然の家に帰ろう	昼食（レストラン）	夏のまとめ	秋のけいかく	おわりのつどい	解散							

企画のポイント

実施する7月は、当施設の特徴である「海」の活動がダイナミックに行うことができ、また、自然の中でも活動するには良い時期である。低学年の子どもたちが海と仲良くなるとともに、地域の自然にも親しんでもらいたいという思いを持って企画した。

「夏のたんけん」では、プログラムを大きく2つに分けて企画した。一つ目は、昨年度までの形式を引き継ぐ「スノーケリング活動」、二つ目は、本年度から取り入れた「無人浜でのキャンプ活動」である。全日程2泊3日のうち、前半をスノーケリング活動、後半を無人浜でのキャンプ活動とし、夏の海を思い切り楽しんでもらえるように心がけた。

1日目は、海になれるために、浮くことや栈橋から飛び込むことを中心に行うこととした。海の中を見たい子どもたちもいるだろうが、まずは、ちゃんと浮くこと、海に身をまかせることが海とのふれあいでは大切であると考えた。また、顔に水がかかっても大丈夫だと思えたり、足が届かないところでも怖くないと全員が思えるようにしたいと考えた。

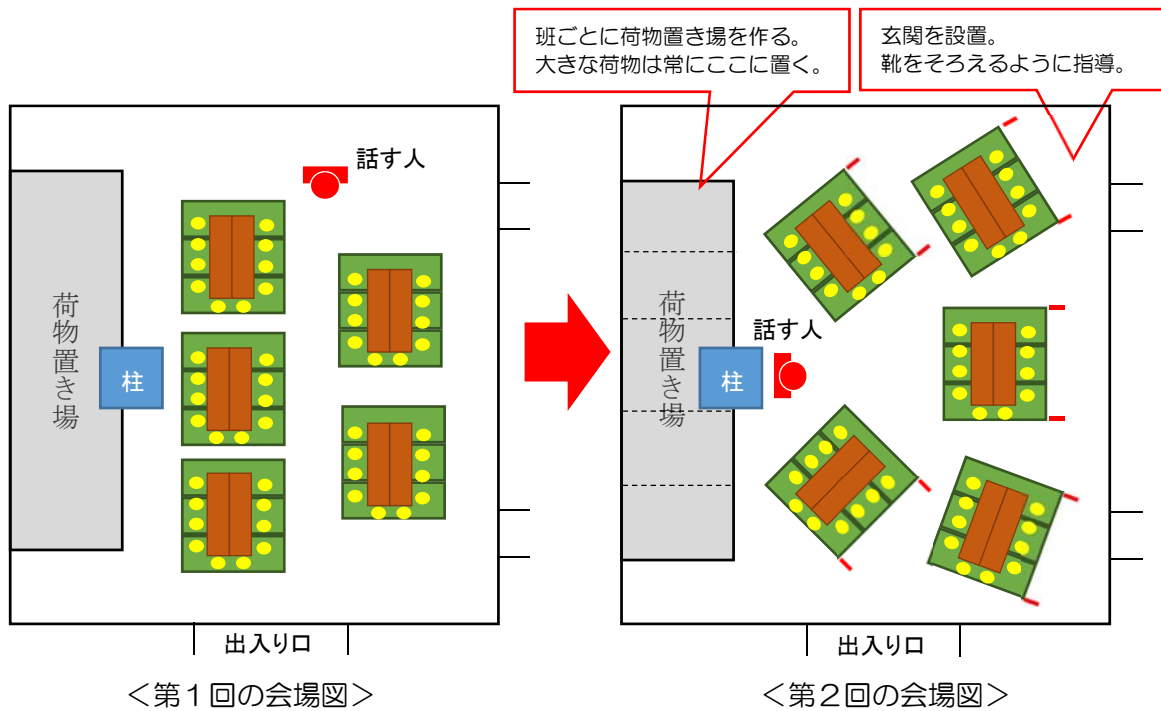
2日目の午前中は、当施設の前の浜にある潜堤というテトラポットを沈めている場所で、海のいきものたくさん見ることができるスポット（浜から約50メートル、途中の水深が8メートル程度）に泳いで行くことを目指して、通常の利用団体に行うようなスノーケリング活動の流れに沿って、マスクの着け方を中心に、時間をかけて丁寧に行うこととした。

2日目の午後からは、1泊2日での無人浜でのキャンプ活動である。場所は、「カタボコ浜」で行うこととした。当施設ができる前から、地元の田島地区から船で渡してもらい、海水浴場となっていた場所である。船を使わずに、当施設から車で5分ほど走り、取付道路横の広場から斜面を降りていくと、陸路でも行ける。目の前に広がる海と後ろにある山が、とても良い雰囲気を作り出しており、「たんけん」という言葉が、とてもよく似合う場所だと思い、そこを利用することとした。しかしながら、ここ数年はカタボコ浜を利用する事業を実施していなかったため、下見を重ね、荷物の運搬方法や使用するエリア、配置などを検討し、実施した。



運営のポイント

前回の課題であった子どもたちに話を聞かせるという点については、下記のように会場としているオリエンテーション室のレイアウトを変更して、話している人に対する注目がしやすくなるようにした。また、整理整頓を心掛けるためにも、班ごとに荷物置き場を設置したり、各班ごとの靴置き場（玄関）も設けたりし、子どもたちの環境面から、話す人に集中できる取り組みを試みた。



このような環境を整えることで、安全に対する意識も高められるようにした。例えば、海での活動の際には、荷物を散らかして置いておくと、自分のものがどこにあるか分からなくなるし、波に持っていかれてしまうこともある。テントの中でも、自分の荷物を整理しておかないといけない。低学年の子どもたちにとって、自分のものを管理することは、学校生活でも課題の一つとして挙げられよう。生活面で自立していくためにも、必要なことにも気づいてもらいたいと考えた。

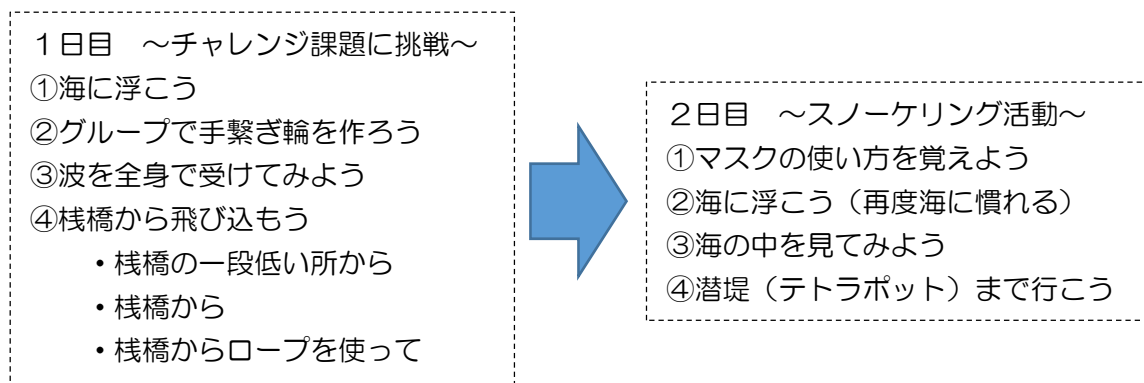
無人浜でのキャンプの際は、テントや炊飯用具など、大きな荷物の移動が必要となる。それらについては、低学年の子どもたちで分担して運ぶことが難しいことから、海から船で運ぶこととした。子どもたちは、自分の荷物を陸上から持って行き、海からは団体の装備を運ぶこととし、カタボコ浜に同じタイミングで到着するようにし、子どもたちも一緒になって船から荷物を下したりできるように計画をした。

安全管理のポイント

メインの活動の一つであるスノーケリングは、昨年度まで実施していた「キッズ海のたんけんたい」のノウハウを生かし、2日間かけて、海に慣れることができるように、段階を追って活動を計画し、安全に子どもたちが海と親しめるようにしている。

また、暑い中ではあったが、ウエットスーツを着て、その上からフローティングベストも着用し、体を守りながらも、沈まないことで安心感が得られるようにしている。

海に慣れるようにするために、チャレンジ課題を設定し、それをクリアするように実施した。そのため、マスクは付けずに、活動を行うこととした。また、2日目は、当施設が利用団体に行うようなスノーケリング活動の流れで実施した。フィンについては、低学年の子どもたちにとっては、扱いが難しく、かえって動きにくくなることが考えられたため、両日とも使用しなかった。



キャンプの場面では、すぐ目の前が海であるが、海には入らないようにした。午前中までのスノーケリング活動で十分海に親んでもらい、午後からは活動を切り替えて、キャンプを楽しんでもらいたいと考えた。安全管理の面からも、ウエットスーツやフローティングベストを持って行かないことにしたことから、海に入らないことを徹底することとした。気軽に海に親んでもらいたいが、海に入るためにはきちんとした準備が必要であることも知って欲しい。参加者にとっても、やはりきちんとした準備があってこそ海に入って活動ができると思ってもらいたいと考えている。

また、前回の課題として挙げられていた子どもたちの安全管理については、ボランティアスタッフとの事前打合せの際に、再度、子どもたちのことを見ているようにと、以下のことを中心に伝えた。

- 各班のボランティアスタッフで意思疎通を図り子どもたちに目が届かない状況を作らないようにすること
- グループから離れる子どもがいたら職員に声をかけること
- グループを越えて、子どもたちのことをみんなで見ること
- 前で職員が話しはじめたら、スタッフが率先して声をかけ、注意を促すこと

以上のようなことを伝え、海での活動においては、「子どもの姿が見えない＝重大な事故につながる」ということを職員、ボランティアスタッフが認識して臨むようにした。

カタボコ浜でけが人や急病人が出た際には、海から船で行く方法と、陸から坂を上って駐車場に向かう2パターンを考え、自然の家には常に操船ができる職員が待機しているようにし、坂の上には、マイクロバスや公用車を待機させておいた。

実際の様子

<1日目>



開会式 靴も姿勢もそろっているね



ご飯を食べて、いよいよ海へ行くよ



いい天気！まずは、海と仲良くなろう！



仲間と一緒に海活動、楽しいね。



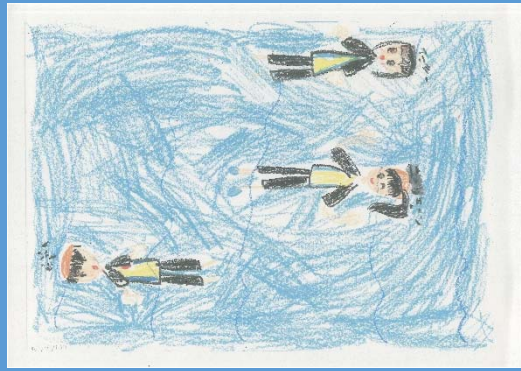
ちょっと怖いけど、頑張ってみる！



慣れてきたら、大ジャンプもできる！

1日目のふりかえりの絵

栈橋から海に飛び込んだことが、印象的であった子が多かったようで、多くの子がその様子を絵に描いていた。また、海に浮かんでいる様子を描く子もいた。自分だけを描く子もいるが、下の絵のように、自分以外の班の子を描いた絵もあった。第1回の絵を見てみると、生き物や風景の絵がほとんどであった。班の中での関係が深まってきていることを表しているのだろうか。今後も注目していきたい部分である。



<2日目>



マスクを合わせて、さあ海へ！



うまく海の中が見えるかな・・・。



ちゃんと見れる！



一人でも泳げたよ。



スタッフのお兄さん、お姉さんと一緒に安心。遠くまで泳げて、魚も見つけた！





午後からは、無人浜に向けて出発。急な坂道や小川もわたって、進みます。



包丁の使い方、教えてもらったよ。



火、ちゃんとつけられるかな。



夕食のカレー作り。とっても美味しい！夜は、波の音を聞きながらテントで寝ます。



<3日目>



朝から子どもたちは水切りに挑戦。



朝食は、牛乳パックホットドッグ。



テントの片付け、なかなか難しい。



無人浜でのキャンプ、できたね！



帰りは上り、頑張っていこう。



どんなことがあったかな。絵を描こう。

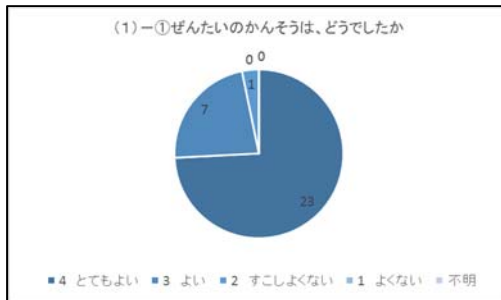
3日目のふりかえりの絵

子どもたちの絵を見てみると、キャンプの体験の様子が描かれている絵が多かった。特にテントが描かれている絵が多く、そこで1泊したことが印象に残っているようである。短い時間ではあったが、火を囲んでキャンプファイアーも行った。暗い中、波の音を聞きながら、仲間と一緒に火を囲んだことは、印象深かっただろう。また、道なき道を進んで無人浜に行ったこと、また、そこを通過して帰ってきた様子を描いた絵もあった。普段は行かないような無人浜でのキャンプを仲間と一緒にすることができたということに自信を持ってもらいたい。



事業アンケート

(1) 全体の感想はどうでしたか。

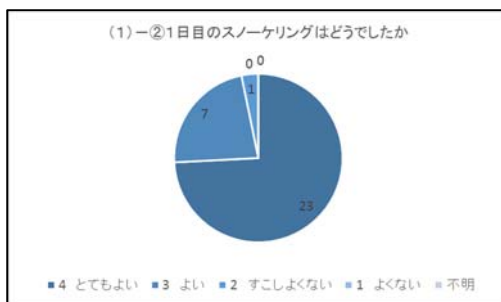


○お友達と一緒にスノーケリングができたりして楽しかったです。

○たのしかった。

多くの参加者が「たのしかった」と答えてくれていた。2泊3日で夏の海を楽しんでもらえてよかったと感じている。

(2) 1日目のスノーケリングはどうでしたか。



○初めてだったけれど楽しかった。またしたい。

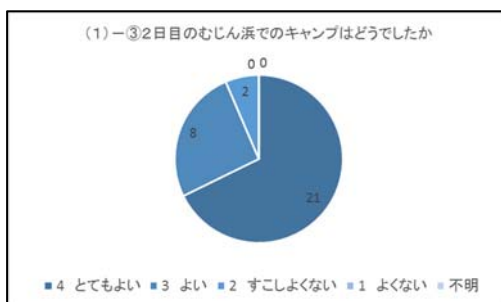
○さいしょはこわかったけれど、たのしかった。

●塩水が口の中に入れてにがかった。

●ちょっとこわかった。

海に浮く体験から始まり、飛び込みで海に慣れて、段階的にスノーケリングを進めていったが、中には、怖がる子もいた。

(3) 2日目のむじん浜でのキャンプはどうでしたか。



○じぶんたちでつくったごはんがおいしかった。

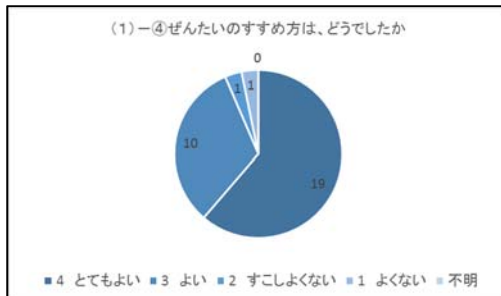
○テントの中で過ごすのが楽しかった。

●ちょっとつらかった。

●虫さされが十数か所あり、痒くて大変でした。
(保護者から)

カレー作りでは、どの班もおいしく出来上がっていた。虫さされへの対策が不十分であった。

(4) ぜんたいのすすめ方はどうでしたか。

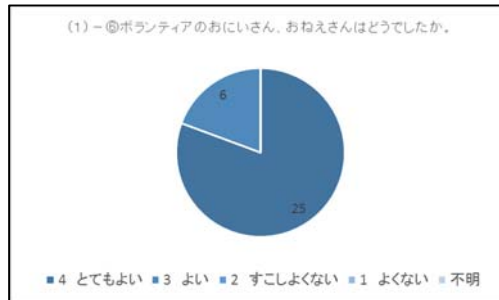
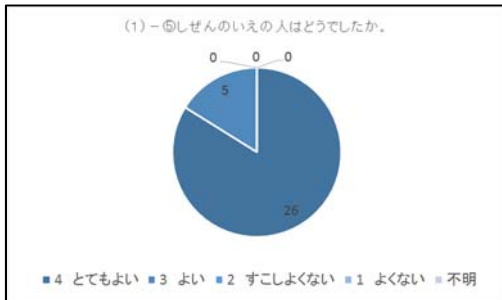


●日程のスピードがはやかった。

●おそくなったりした。

2泊3日にスノーケリングとむじん浜でのキャンプを取り入れたが、日程がタイトであり、特にむじん浜でのテント設営は、浜を利用する他団体に配慮し、食事作りを先に行ったため、大幅に遅れ、暗い中で行うこととなった。

(5) しぜんのいえの人やボランティアのおにいさん、おねえさんはどうでしたか。



参加者からのスタッフの評価は、前回に続き、高かった。

事業の成果と課題

- スノーケリングでは、昨年度まで実施していた「キッズ海のたんけんたい」のノウハウを生かし、段階を踏んで海に慣れていく手法は、効果的であったと感じている。特に、1日目は物足りなかったかもしれないが、海に浮く体験や栈橋から飛び込む体験などをし、足の届かないところでも怖くないという気持ちや、水の中で自由に動けることを確認することは、マスクをつけてスノーケリングをする前の段階として、重要だと感じている。また、水に顔をつけることは、子供たちにとってハードルの高いことであろう。浮いたり、飛び込んだりする中で、思わず水が顔にかかってしまったり、顔をつける状況が起きたりする中で、徐々に慣れていくこと様子がみられた。今後も、低学年の子供たちが海に慣れていく段階には、十分配慮しながら、スノーケリングの導入にとって必要なノウハウを蓄積していける事業にしたい。また、スノーケリングの指導についても、より分かりやすい説明の方法についても、検討を重ねていきたい。
- 前回からの改善点として、会場としているオリエンテーション室のレイアウトを変更した。参加者は、荷物をどこに置けばいいのか、ちゃんとわかるようになり、自分から進んで整理整頓をするようになっていた。前回までの雑然とした雰囲気なくなった。また、バラバラになっていた靴も、玄関を設けることで、きれいに整うようになっていた。環境を整えることで、話を聞く体制や落ち着いた雰囲気を出すことができるようになることが分かった。さらには、話す人におへそを向けて座ることができることで、話に集中できる子が増えたように感じた。こうした工夫は、学校教員から出向されている企画指導専門職から教えていただいた。今度も事業を進める中で、学校現場で活用されている知恵や工夫も取り入れ、低学年の参加者にとって、学びやすい環境づくりを進めていきたい。
- 本事業は、若狭地域のフィールドに積極的に出ていきたいと考えている。夏は、その一環として、当施設から取付道路を戻っていく途中にある無人浜「カタボコ浜」を利用させていただいた。利用するにあたっては、地元の小浜漁協協同組合田烏支所に相談し、許可を得ている。地元の田烏地域では、海水浴シーズンになるとお客さんをカタボコ浜まで船で渡している。そのために、カタボコ浜では、一般の方とエリアを分け、利用するようにした。当日は、一般の利用者の方がいたので、到着してすぐに行う予定であったテントテント設営を後回しにし、食事作りからスタートした。状況に合わせて、柔軟な日程にすることを心掛けた。地域のフィールドを利用することは、こちらの思い通り

になるものではない。常に利用させていただき気持ちを持ちつつ、今後も様々な地域に出ていきたいと思っている。そうすることで、参加者にもこんな面白い場所が地域にあるのだと知ってもらいたい。また、体験したければ、家族でも行くことができる。そうした場所での活動を、第3回以降も取り入れていきたい。

- 服装や虫刺されの対策が不十分であったことが課題として挙げられる。夏の暑い時期であったため、無人浜でのキャンプの際には、特に普段と同じような服装で活動をしてきたが、夕方から蚊が多く出てきて、いくつも刺されてしまう子が出てしまった。着替えについても、長袖、長ズボンということ伝えておらず、当施設の落ち度があった。夕方からの虫対策や朝晩の冷え込みを予想して、今後は、各回のキャンプにおいて、長袖、長ズボンの持ち物は必須にしていきたい。虫よけスプレーや蚊取り線香はもちろんのことだが、自分の身は、自分で守ることを伝えていくようにしたい。
- 所から離れて活動する際の安全管理体制については、再検討をしていきたいと考えている。今回はケガや病気などでの緊急搬送はなかったが、いざという時にどのように参加者やスタッフを動かすのか、備品や人の配置について、さらに工夫する必要がある。昼間は、運搬船があったために、何かあれば、海から自然の家に戻ることも可能であるが、夜間は、無人浜からは陸路を使うしかない。しかも、歩道などの整備されていない急な斜面を上がっていくしかない。こうした環境の中で、どのようにしたら緊急時に対応できるかどうか。今後も、カタボコ浜での活動を継続していきたいと考えているので、検討を深めていきたい。
- テント設営やテント撤収、寝袋の片づけ方について十分な説明をしていなかったため、参加者が主体的に取り組むことができなかった。ボランティアスタッフが参加者と一緒になってやっていたが、説明をしながらでは時間もかかってしまい、どのようにしたらいいのか、参加者にとっては最後まで分からない状態であったろう。今後は、年間4回を通して使う、テントや寝袋については、その正しい使い方や片づけ方をきちんと説明をする時間を設け、何度もやってみて、自分たちでできるようにしていくことが大切かと考えている。

全体を通して、第1回の参加経験があったことで、参加者同士も打ち解けるのが早く、良い雰囲気での活動ができていた。海での体験からキャンプ体験の連続は、体力的には少し厳しいかと思っていたが、夏の海の体験としては、満足いくものであったと考えている。課題も多くあるが、近年、実施していなかった無人浜での活動や本格的なキャンプ活動に関するノウハウを蓄積していくいい機会であると考えている。